

令和3年度 医療情報の理解促進に関する研修会の開催結果について

1 研修目的

都民が医療を受けるに当たり、主体的に選択・判断するための基盤となる医療情報の理解を深めるとともに、患者（都民）と医療従事者等とのより良い関係の構築を図るため、業務を通じて都民に関する理解を促す役割を担う人材を養成する。

2 研修会テーマ

⇒ 昨年度の本委員会にていただいた御意見（※）と新型コロナウイルスの感染拡大を契機として脚光を浴びている、オンライン診療を題材に、「患者との関わり方」についてテーマを設定

（令和3年度 研修会テーマ）

いま知っておきたい、患者との関わり方 —リスクコミュニケーションとオンライン診療—

- ・「医療従事者が知っておきたいリスクコミュニケーション」
株式会社グローバルヘルスコミュニケーションズ 代表 蝦名 玲子 氏
- ・「実臨床におけるオンライン診療の現状と今後の展望」
医療法人社団M-FOREST みやざきRCクリニック 院長 宮崎 雅樹 氏

（※）昨年度の本委員会にていただいた御意見

- ・新型コロナは、影響が今後もしばらく続くと思われるので、テーマとしてタイムリーな内容。
- ・コロナ患者への対応においては、未だ不確定な情報も多いため、医療を提供する側（＝医療従事者）と受ける側（＝患者）の間でいかに正確に情報を共有していくかが重要。

3 開催方法・配信期間

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンデマンド配信により実施
- ・配信期間は2月1日から2月28日まで

4 申込者数 294名

（参考）開催実績（平成27年度～令和元年度）※令和2年度については、開催を見送り

年 度	内 容（講 師）
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ■患者・家族との対話の進め方～トラブルにならないために～ 「医療メデイエーションを活用したコミュニケーションスキル」 （全国土木建築国民健康保険組合 総合病院 厚生中央病院 院長補佐 荒神 裕之 氏） ■患者とのコミュニケーション術 「わかりやすい説明の仕方～患者の立場から～」 （NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子 氏）
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ■患者・家族とのトラブルを防ぐ 「円滑なコミュニケーション」 （早稲田大学大学院法務研究科 教授 和田 仁孝 氏）
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ■人生の最終段階における医療とケアのあり方 「本人・家族とともに考える意思決定」 （東京慈恵会医科大学附属柏病院 総合診療部 診療部長 三浦 靖彦 氏）
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ACP（アドバンス・ケア・プランニング）のすすめ方 「その人らしく意思決定するために」 （東京慈恵会医科大学附属柏病院 総合診療部 診療部長 三浦 靖彦 氏）
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ヘルスリテラシー向上のために医療従事者ができること 「適切な情報提供のあり方を考える」 （聖路加国際大学大学院看護学研究科 教授 中山 和弘 氏）